

# バジルの育て方・栽培 | 植物図鑑

[お気に入り](#)

植物名	バジル
学名	<i>Ocimum basilicum</i>
英名	Basil
科名	シソ科
属名	メボウキ属
原産地	熱帯アジア

[基本情報](#)[育て方・栽培](#)

## バジルの特徴

バジルは普段「バジル」とか「バジリコ」と呼ばれているハーブで、イタリア料理には欠かせないハーブの一つです。爽やかな香りが食欲をそそり、生ではもちろんのこと、ジェノベーゼソースやパスタ、ピザの彩りに最適です。6月下旬ころから9月にかけてシソ科らしい花穂をつけ可憐な白い花を咲かせます。

## バジルの詳細情報

園芸分類	ハーブ
草丈・樹高	20~60cm
耐寒性	弱い
耐暑性	強い
花色	白
開花時期	6~9月

基本情報

育て方・栽培

## バジルの育て方カレンダー

時期	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
種まき				■	■	■						
植え付け				■	■	■						
剪定					■	■	■	■	■			
肥料					■	■	■	■	■			
開花							■	■	■			
収穫					■	■	■	■	■	■		

## バジルの栽培環境

### 日当たり・置き場所

バジルはお日様が大好きなハーブです。日当たり、風通しの良いところで管理します。4月の間は遅霜など、気温が急に下がる日もあるので、地植えのバジルの定植は5月以降の方が安全です。

### 温度

バジルの種の発芽には20℃以上が必要なハーブです。4月から5月上旬までの急な気温の下がりがありそうな日は、夜のみ室内に取り込みます。耐えられない寒さにあうと、葉が黒っぽくなってダメージを受けるので注意しましょう。

### 用土

保水力の高い有機質に富んだ土が最適です。地植えにする場合は保水性の高い培養土をすき込むか、完熟堆肥と腐葉土を十分にすき込んであげるとよいでしょう。鉢やプランターで楽しむ場合は、市販の有機質の高い培養土かハーブ用の土を利用しましょう。

＼ハーブの土を使う時も鉢底石を使おう！／

## バジルの育て方のポイント

### 水やり

鉢植えのバジルは、鉢の表面の土が乾いたら鉢底から水が流れ出るくらいたっぷりと水やりをします。バジルは水を好み乾燥には弱いため、水切れを起こさないように注意します。基本的な水やりは朝が最適です。夏場の鉢植えは水切れを起こしやすいので、明るい半日陰に鉢を移動し、場合によっては夕方気温が下がる頃に再度水をたっぷり与えましょう。

地植えで乾燥が気になる場合は腐葉土やバークなどでマルチングをしておくことで乾燥の防止になります。

### 肥料

植え付け時に緩効性肥料を与え、生長期の5~9月にかけてはハーブ用の肥料を規定の量、頻度で与えます。肥料切れを起こすと下の方の葉が黄色く変色して落ちてくるので注意しましょう。

### 病害虫

病気には強いですが、[アブラムシ](#)や[ハモグリバエ](#)がつくことがあります。できるだけ早めに見つけて捕殺するか、被害が多い場合は茎や葉ごと切りとりましょう。

また、[ヨトウムシ](#)によって一晩で丸坊主にされることもあります。昼間は株の近くの土の中にもぐりこんでいるので掘り出して駆除しましょう。

夏場は[ハダニ](#)がつくことがあります。水やりの際に葉水をあげると予防になります。

## バジルの詳しい育て方

### 選び方

春の野菜苗が出回る時期にバジルの苗もポット苗で出回ります。茎が太く節が詰まっており、葉の色が鮮やかなものを選ぶようにしましょう。ポットの底から白い健康的な根が見えているのも確認して下さい。苗を作る際に水が多すぎたり管理が行き届いていない苗は根が茶色く腐っていたり、葉が黄色くなりかけている場合が多いです。

最近、苗の出回りが早まる傾向にあり、4月上旬から販売されているのを見かけますが、ハウスなどで育てるのではなく、露地栽培にするなら、苗の購入はゴールデンウィークの頃以降がおすすめです。もし、4月前半に購入した場合は、気温が安定するまでは夜間は室内に入れるなどの工夫が必要です。

バジルは品種がとてもたくさんあるハーブです。品種によって、花丈、葉の大きさや色などが違うので好みのものを選びましょう。

▼香り深く味が濃いスイートバジル2苗のセット

## 種まき

バジルは、種の発芽には20℃以上の温度が必要ですので、4月下旬から5月の気温が安定して遅霜の心配がない頃にまきましょう。地植えの場合はポットで苗を育てた後に定植するか、直播きにします。種を重ならないようにまき、光発芽性なので覆土はせずに十分に水を与えます。日に当てて乾燥させないように管理します。本葉が2〜3枚出てきたらこみ合った部分を間引きし、間引きしたベリーリーフは料理に使います。

## 植え付け

購入したポット苗はポットから根鉢を崩さないように取り出し、苗の土の表面が浅く潜る程度まで用土で埋め戻します。植え付け後は水をたっぷりと与え、用土に肥料を混ぜ込んでいない場合は粒状の緩効性肥料をまいておきましょう。

バジルは、暑いのが大好きなハーブです。最近、苗の出回りが早まる傾向にあり、4月上旬から販売されているのを見かけますが、4月の間は遅霜のような気温が急に下がる日もあるので、地植えの定植は5月以降の方が安全です。

## 剪定・切り戻し

バジルは花を咲かせると葉は固くなり、味も落ちてくるので、葉を収穫するために育てているなら、適切なタイミングに摘芯という剪定作業をしていくことが必要になります。

草丈が20cm程度まで生長したら摘芯して側芽の生長を促します。やり方は地面から数えて2〜3節目の少し上を清潔な鋏で切ります。その後は大きくなったら収穫もかねて切り戻すようにするとよいでしょう。摘芯をすると、今まで1本だった茎が2本になります。この摘芯を繰り返すと、茎が倍々に増えるので、収穫量も増えます。通常、摘芯をしないで花を咲かせると、8月ごろに種をつけた後は、急に元気がなくなってきましたが、摘芯をするとバジルとしては次の花を咲かせるために（子孫を残すために）新しい葉を出していくので、収穫できる時期が伸び、収穫量も増えます。摘芯すると長くたくさん収穫できるのです。

## 植え替え・鉢替え

一年草扱いのバジルは、植え替えの必要はありません。

## 花

6〜9月に白い花が開花しますが、葉っぱを収穫するために育てる場合は、花は咲かさないう方が長い期間収穫できます。

## 収穫

適時、必要な分を茎ごとカットして収穫します。脇芽の生長を促すので収穫量が増加します。収穫する時間帯は朝か夕方にしましょう。

## 夏越し

バジルは暑い国が原産のハーブなので問題なく夏越しできますが、梅雨から夏のあたりに、切り戻し剪定をしていくと、長い間、葉を収穫することができます。

## 冬越し

冬の入り口までが寿命なので、冬越しの必要はありません。

## 増やし方（株分け、挿し木、葉挿しなど）

通常、種で繁殖させるのが一般的です。